

2012 年 6 月 11 日

報道各位

三菱地所株式会社

**「りそな・マルハビル」・「三菱東京UFJ銀行大手町ビル」の建替
「(仮称) 大手町1－1計画」について
～丸の内再構築「第2ステージ」第4弾プロジェクト～**

三菱地所株式会社は、千代田区大手町一丁目所在の「りそな・マルハビル」および「三菱東京UFJ銀行大手町ビル」の2棟について、「(仮称) 大手町1－1計画」として一体的な計画の下で建替に着手します。

本計画のうち、「りそな・マルハビル」建替については、当社とJXホールディングス株式会社との共同事業として、「三菱東京UFJ銀行大手町ビル」建替については、当社の単独事業として推進する予定です。当社は丸の内再構築「第2ステージ」第4弾プロジェクトである本計画を通じ、丸の内再構築の更なる「拡がり」と「深まり」を目指します。



外観イメージパース（竹橋方面から）

【計画概要】

□A棟（りそな・マルハビル建替）

所在地	東京都千代田区大手町一丁目1番2号（住居表示）
主要用途	事務所・店舗・駐車場等
敷地面積	約6,900㎡
延床面積	約108,000㎡
階数	地下5階、地上22階、塔屋2階
建物高さ	約100m
設計監理	株式会社三菱地所設計
新築工期	2012年度～2015年度（予定）

□B棟（三菱東京UFJ銀行大手町ビル建替）

所在地	東京都千代田区大手町一丁目1番1号（住居表示）
主要用途	事務所・店舗・サービスアパートメント・地域冷暖房施設・駐車場等
敷地面積	約9,300㎡
延床面積	約147,000㎡
階数	地下5階、地上29階、塔屋2階
建物高さ	約140m
設計監理	株式会社三菱地所設計
新築工期	2013年度～2016年度（予定）

※当社はJXホールディングス株式会社と共同で都市再生特別地区の都市計画提案を東京都宛行い、6月11日付で都市計画決定が告示されております。

（都市再生特別地区名称：大手町一丁目1地区）

【プロジェクトの特徴】

□国際金融拠点「大手町」に相応しい高度高質な国際的業務機能の整備

- 敷地西側近傍に皇居東御苑並びに皇居外苑濠（大手濠）の豊かな水と緑を臨み、地下鉄5路線が乗り入れる「大手町駅」に直結するなど交通利便性にも優れた立地特性に相応しい、高度で高質な国際的業務機能を整備します。
- 1フロアあたりの面積はA棟が約2,700㎡（約800坪）、B棟が約3,300㎡（約1,000坪）と、大手町エリアでも最大級の大型オフィス空間となる予定です。

□国際ビジネスセンターの機能強化に向けた多様な業務支援施設の整備

＜サービスアパートメント＞

- ビジネスを主体とした中長期滞在に対応出来る宿泊施設として、快適な滞在環境と高度かつ多様なビジネスサポート機能を提供するサービスアパートメント（約120室）をB棟高層階に整備し、グローバル企業のアジア拠点誘致やアジアの都市間競争における東京の国際競争力向上の一翼を担います。

＜ビジネス・エコシティ・センター＞

- 環境ビジネスを行う国内外の企業・人材の情報交換・マッチングを促進する拠点として、次世代の環境技術に関するラボラトリー機能、環境に関する最先端の取組を可視化・情報発信するショーケース機能や、交流・啓発機能を備えたビジネス・エコシティ・センターをA棟1階に整備します。

＜ランニングステーション＞

- ・ 国際ビジネスセンターを支える就業者の健康維持・管理および相互交流のサポートを目的とした健康施設をA棟地下1階に整備、皇居周辺のランナー向けに多様なサービスを提供するランニングステーション機能も備えます。

□皇居外苑濠の水質改善など良好な都市環境の再構築

＜濠水の浄化施設および大型貯留槽＞

- ・ 皇居および外苑濠に隣接するという立地特性を生かし、皇居外苑濠の水質改善に向けた官民連携の取組として、計画地内に濠水の浄化施設（処理能力：約50万m³/年）および大型貯留槽（容量：約3,000m³）を整備します。

＜環境共生型コミュニティ広場＞

- ・ 皇居および外苑濠の水と緑と調和し、エリアのコミュニティ形成の核となる緑量豊かなコミュニティ広場（約2,800m²）を整備します。

＜環境負荷低減への取組＞

- ・ 環境に配慮した外装や高効率設備の採用等により、東京都建築物環境計画書制度におけるPAL・ERRの「段階3」および建築環境総合性能評価システム「CASBEE」Sランク確保を目指します。また、街区内に高効率の地域冷暖房施設を整備し、地域全体の省エネにも貢献します。

□高度防災都市づくりに向けた取組

＜災害時の供給安定性に優れた大容量非常用発電機＞

- ・ 大規模災害等による停電や電力使用制限への対応として、従来のオフィスビルに多く導入されているA重油専燃の非常用発電機に加え、中圧ガス・A重油の双方に対応し、災害時の供給安定性に優れたデュアルフューエル型ガスタービン発電機を配備します。
- ・ 敷地内に非常用発電機向け大容量オイルタンク（約50万L）を配備し、A重油のみで72時間以上の発電機運転を可能とします。これに加えて、中圧ガスの使用により更なる長時間運転を可能とし、テナント企業の業務継続を強力にサポートします。

＜多重的な止水対策＞

- ・ 水害対策として、1階部分や周辺建物等との地下接続部に千代田区洪水ハザードマップ（荒川版）において想定される浸水深に対応した防潮板・防水扉を設置します。これに加えて、電気室等の重要設備室にも防水扉を備える等、多重的な止水対策を講じます。

＜帰宅困難者対応＞

- ・ 大規模災害時に計画地周辺で発生が予想される帰宅困難者対応として、一時待機施設を建物内外に整備するとともに、食料・飲料水等の備蓄の強化や災害・交通情報の提供、マンホールトイレの設置など、帰宅困難者を支援するための多様な機能を整備します。

□歩行者ネットワークの整備

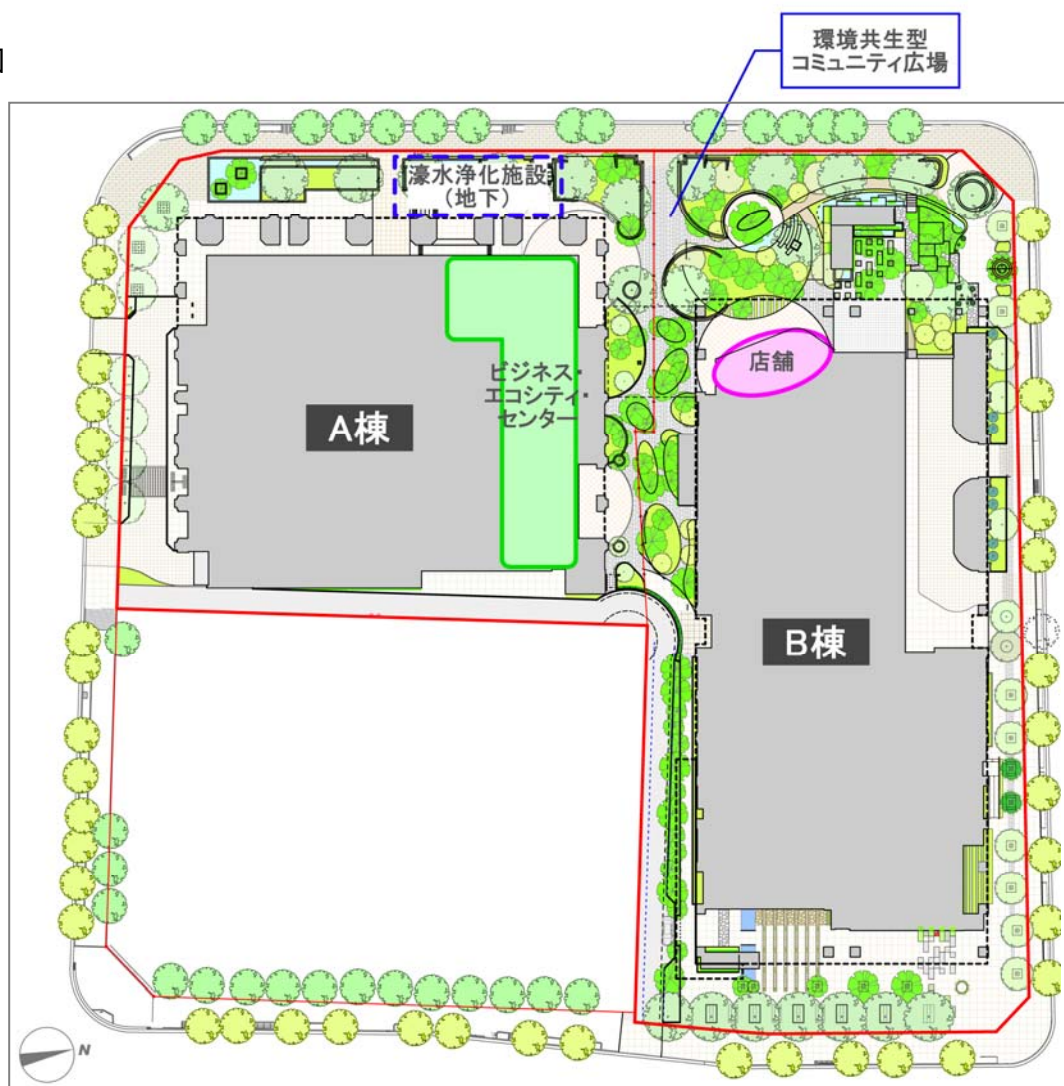
- ・ 地下鉄「大手町駅」とB棟を直結するバリアフリー動線を整備すると共に、A棟・B棟相互の地下1階貫通通路を接続します。併せて、計画地が面する各通り沿いの歩行者空間の整備や、宅地内の歩行者ネットワークの整備にも取り組みます。

以 上

■案内図



■配置図



■「環境共生型コミュニティ広場」イメージパース



丸の内再構築について（ご参考）

当社では、丸の内という街をひとつのブランドとして捉え、そのコンセプトを「世界で最もインタラクティブ(※)が活発な街」と定めています。

働きやすい、賑わいのある、文化的な、環境にやさしいなどの多様性に加え、ビジネスセンター機能の充実、街のグローバル対応に取り組むことで、世界から選ばれる国際的ビジネスセンターを目指してハード・ソフト両面から再構築を進めております。

※インタラクティブとは、個人や企業が相互に影響しあい、お互いの価値を総合的に高めていくことを指します。

○第1ステージ

1998年からの10年間で「第1ステージ」と位置付け、東京駅前周辺を重点的に機能更新しながら丸ビルをはじめ6棟のビルの建替を進めました。

《建替スケジュール》

2002年	8月	丸ビル竣工
2003年	2月	三菱UFJ信託銀行本店ビル竣工
2004年	9月	丸の内オアゾ竣工
2005年	10月	東京ビル竣工
2007年	4月	新丸ビル竣工
2007年	5月	ザ・ペニンシュラ東京竣工

《取り組み》

- ・情報通信ネットワークの整備などビジネスサポート環境の充実
- ・多様な商業テナント出店による新しい商業エリアの誕生
- ・ベンチャー支援や大学集積による多様な交流の創出

○第2ステージ

2008年からの10年間で「第2ステージ」とし、「第1ステージ」から取り組んできた丸の内再構築の更なる「拡がり」と「深まり」を目指し、「大手町・丸の内・有楽町地区」全域にその効果を波及させていきます。

《建替スケジュール（既公表プロジェクト）》

2009年	4月	丸の内パークビル・三菱一号館竣工
2012年	1月	丸の内永楽ビル竣工
2012年	9月	大手町フィナンシャルシティ竣工（予定）